かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66−1311
FAX 66−1314

引野分教会

大正15年10月30日　設立
昭和２年５月22日　御鎮座奉告祭
昭和31年７月６日　移転奉告祭

陽気ぐらしを目指して、たすけの輪を広げよう

今一手一つに、一歩一歩！

＊初席者一名以上
＊百万件のにをいがけ

創立百三十周年記念祭並六代会長就任奉告祭

立教184年(2021年)10月24日 執行

立教182年
7月号

『有志ひのきしん隊』実施
青年会

青年会笠岡分会(上原明勇委員長)は、6月17日、呰部分教会で有志ひのきしんを実施、9人が参加した。

この日は、島根、鳥取からもひのきしんに駆けつけ、敷地内の除草を行った。参加者は暑さも厭わず、梅雨の時期に伸びた草を刈っていった。

また、6月28日には、油木分教会でも有志ひのきしんを実施した。

刈取られた草の山(右)

よふぼく勉強会開催 テーマは「伏せ込みの理」
6月月次祭後

育成部

育成掛(中島誠治主任)は、6月21日祭典終了後、午後1時30分から2時まで会議室でようぼく勉強会を開催、2日後に婦人会長様ご臨席総会を控え準備に慌ただしい中にも大勢が参加した。

講師は田林久嗣東悠分教会長。テーマは「伏せ込みの理」。

先生は教祖120年祭の時、教会長就任と同時に教会移転を余儀なくされるという事態を基に、田林家の入信、また現在の教会に移転するまでに尽力頂いた方々との出会いを紹介された。それはただの偶然とは思えない不思議なもので、先祖が早くからこのお道に引き寄せられ、一生懸命伏せ込んで下さった賜物に他ならないと述懐された。それと同時期に地域の方々から自治会長に推され、これも一つの縁であり伏せ込みであると快く受諾された事を話された。

最後に2年後に迎える大教会創立130周年記念祭並び6代会長就任奉告祭に向けて、共々に自分に出来る伏せ込みを一生懸命にさせて頂きましょうと話しを締めくくられた。

勇みきって話される田林先生

こかん様に続く会 開催
7月7日 大教会

女子青年

笠岡女子青年(田中舞委員長)は、7月7日、笠岡大教会でこかん様に続く会を開催、女子青年17人、担当者6人の計23人が参加した。

午前中、支部長様から十全の守護についてのお話があり、その意味合い、また、女子青年というなんでも吸収しやすい時期に自分で学び、身に付けることの大切さをお聞かせくださいました。その後ゲームをし、振り返りをしました。そしてみんなでランチに行かせて頂きました。初めて参加する会員さんの御守護も頂き、終始笑いの絶えない楽しい1日になりました。支部長様をはじめ、担当の奥様方、声をかけてくださった方、参加してくださった会員さん、本当にありがとうございました。

(女子青年委員長　田中 舞)

ワールドビュッフェでも視線を集めた(であろう)笠岡女子青年の面々

支部主任を囲んでキュートに

ENGLISH SEMINAR

～第77回英語講習会～

今年も海外から外国人講師の先生が来ます。

英会話を中心に役立つ英語を勉強しましょう。初めての人、大歓迎！
英語が好きな人も、そうでない人も明るく楽しく英会話を勉強しましょう！

東京オリンピックで、外国人選手との会話に役立つかもしれませんよ！

［募 集 要 項］

期　　間	：	８月６日（火）　午前８時３０分　大教会受付 午前９時００分　開講 ～７日（水）　午後３時ごろ大教会解散
受講　対象	：	小学４年生以上、中学生、高校生、大学生、一般
受講　御供	：	１５００円（宿泊費、食費、受講費など、全て込み）
持　参　品	：	英和、和英辞典（あれば）、筆記具、着替え、洗面具等
プログラム	：	少人数による英会話学習、英語ゲーム、外国人講師講話、 バーベキュー、お楽しみ行事等

尚、詳細はスタッフの　上 原 志 郎　℡ 0865(66)1311
吉岡誠一郎　℡ 086(282)0550
もしくは、大教会までお尋ねください。
（御連絡下されば、当日、JR 大門駅まで送迎いたします。）

◇ 主催　天理教笠岡大教会　海外部

714－0066　笠岡市用之江377　0865(66)1311

修養科生3ヶ月を振り返って

稲倉分教会　中村良二

今年3月の始め、介護の仕事先の施設長と仕事上の事で口論となり勢いで仕事を辞職しました。時間が経つにつれ、これからどうしようか？住むところもなく手荷物のみでフラフラと行く当てもなく歩いていました。その時、現在私が住み込まさせて頂いている教会の方であり自分の理の親に連絡しましたら、「取り敢えず教会に来なさい。」と会長様のお言葉もあり教会に行きました。そこで自分の仕事上の事で勤め先を辞めた理由などを話しました。その時、前から修養科の話しを聞かせて頂いていたので、迷わず「行かせて下さい。」と自らお願いをして3月下旬奈良県天理市に来ました。まず修養科に行く1週間前に詰所での生活が始まり、朝早くから食堂での朝食の支度や後片付け等のひのきしんをしました。

詰所内のトイレ掃除など今まであまりした事がありませんでしたが、ひのきしんの意味も良く理解していなかったと思います。詰所の先生方、又修養科の先生方に色々なお話しを聞かせて頂き、少しづつひのきしんに対する考え方も変わってきました。

修養科2ヶ月目に入り、私自身が身上になり詰所の先生や修養科の一期講師の先生にもおさづけの取り次ぎをして頂きました。日を追うごとに快方に向かい元通りにご守護頂いた事を始め、同じクラスの中で最初は車椅子の方が次第に手押し車になり3ヶ月目には何も使わず、ゆっくりですが普通に歩かれるまでの不思議を見せて頂いたり、又クラスの方のご家族が身上になり病院の検査があって手術になるかもという時、全員でお願いづとめをし手術をしなくて済んだ事など、初めての事ばかりで私の人生の中でこれほどの事はありませんでした。修養科での先生方のお話しの中で、教祖が「人をたすけて我が身たすかる」このお話しの意味が実感できて色々なところで、このお道の素晴らしさが分かってきました。同じクラスの人の身上をおさづけの取り次ぎによって快方する姿を目の当たりにする中で、これからは身上や事情のある方の話しを低い心で聞かせて頂き、教祖のひながたを求め、真実を尽くして徳積みをしながらこれから先2代、3代と代を重ねてお道を通らせて頂きたいと思います。一期講師の先生、詰所の先生方、本当にお世話になり有難うございました。これからは、よふぼくとして教祖の手足となり勇んでこの道を進み、少しでも成人できるよう務めさせて頂きます。

周りへの感謝

芦常分教会　原　智恵理

修養科に来る前の私は、自分かわいで事情身上もどうして私が、何で私がと自分を見直すのではなく、他のせい人のせいにするばかりでした。修養科に来てはじめて神様のお話し、天理教の教えを学びました。全ては神様からのメッセージであり、自分のほこり、自分のまいた悪い種。なぜ自分にはこのような事情をみせられたのかたくさん考えることができました。反省することばかりでした。人は鏡であり、出会う人すべてに意味がある。その言葉に、修養科に来てすぐは考え苦しむことがありました。しかし、日々を過ごすなかで、私は周りの人にすごく助けられ恵まれていることを強く感じました。神様からのおひきあわせの有難さを実感しました。どんな時でも味方でいてくれる家族の存在。私を支えてくれた親戚、友達。天理に来なければ出会うことのなかった詰所・修養科の先生や仲間。そして、息子のあさひに出会えたこと。今まで当たり前に思っていたことが本当は、すごく幸せで有難いことだと気付くことができました。私は、いつも求めるばかりで、今ある日々の幸せに、神様にお礼をできていませんでした。当たり前というものはなく、「有難い」という言葉の気持ちをこの先忘れず、何事も感謝できる心で通らせて頂きたいです。

修養科が終わり帰ってからが本当の修養と教えて頂きました。教会とこの先つながり、会長さん奥さんに喜んで頂けることをさせて頂く。今回事情で家族や周りの人に、心配をたくさんかけ悲しませてしまいました。もう落ち込んだり、泣いたりせず前に進んでいる姿をみせる。そして、息子であるあさひに、ごめんなさいという気持は一生消えません。でも、それを伝えるのではなく、生まれてきてくれたこと、

ママの大切な宝物であるということを伝え、笑顔で明るいママでいる。あさひに神様の教えをつなげていく。親神様、教祖ならと考えれる人になる。今後、この気持ちを忘れず、自分にできることを一つずつさせて頂きたいです。きっと、みんなが当たり前にできていることばかりで、でも当たり前なんてなくて、それぞれに教えを胸におさめ、日々勇んで通っているということを修養科に来て感じさせて頂きました。修養科の３ヶ月間本当に幸せな日々を過ごすことができました。事情も有難いと思えるようになりました。それは、天理で出会うことのできた多くの人達のおかげです。息子のことを我が子のように可愛がってくれ、心配してくれ、一緒になって涙を流してくれたこと私は一生忘れません。そんな温かい優しい人になりたいです。感謝ばかりの３ヶ月でした。本当にありがとうございました。

感謝！！！

上下分教会　山野奈々

私は身上・事情も何もなく、ただ転職を機に、元気な体で修養科へ入らせていただきました。なので普通に３ヶ月修養できるだろうと安易に思っていました。が、いざ始まってみると３ヶ月目に何回も発熱、風邪…と身上を見せていただき、元気な日はあまりなかったかなと思います。４月の終わりには小腸へ水がたまり、なんと入院することとなりました。無事退院したものの、この３ヶ月間１ヶ月に最低２回は発熱・早退・欠席…と今まで１年に１回インフルエンザでしか寝込まない元気満々な私にとって、あまりに短期間で多くの身上を見せていただきました。詰所、クラスの方々には体の弱い子というイメージがついてしまって、顔が少し赤くなっただけで「熱計ってきなさいっ！」と言われ、無理やり授業を止めさせてしまうほどでした。本当に情けない思いをしました。

身上を見せていただいた時、あぁ元気に朝起きれるのってこんなにありがたい事だったんだなぁ、炊本とかポテチとかアイスをいっぱい食べれるって幸せ…、みんなと大笑いできる日常ってこんなに素敵だったのだと改めてかしもの・かりもののありがたさを身をもって感じました。

ですが、何回も身上を見せていただくのでその度に「神様は私に何を仰っているのだろう、足りない事が多すぎてどうしたら良いか分からない。私よりも周りの人の方がずっと辛い思いをして修養科へ来たのに私が弱っていてどうするんだ。」と自分を責めてばかりいました。その度に周りの方々が声を掛けてくださり、おさづけを取り次いでいただいて、本当に一言一言に助けられました。

自分の体が思い通りに動かない時、やっぱりおつとめしかないと強く思わせていただきました。元気になった時、神様ありがとうございます！と今までにないお礼の気持ちが溢れ、そして今度は、私の周りの方が身上になった時、真っ先に神殿へ足を運んでおつとめをさせていただきました。

また家に帰ると、３ヶ月間毎日、父と母が十二下りをしてくれていたと聞きました。

本当に周りの方々のおかげで過ごせた３ヶ月だったと思います。

今まで天理教をなんとなく信仰していたかもしれません。ですが、こうやって３ヶ月おぢばで生活させていただいて、初めて自分自身そしてお道と向き合えたと思います。修養科で感じた事は全て私の一生の宝物です。

ありがとうございました。

「天理」PRステッカー

自動車やかばん、タブレットなどに貼りつけることで、″天理″の魅力を社会へ発信するグッズ。

TENRI 天理

（縦6.5センチ×横9センチ）、

I LOVE TENRI

（縦5.5センチ×横18センチ）

お求めは道友社本社、おやさと書店、道友社Webストア、天理駅構内コフフンショップで。各216円（税込）。

談話室

叔父の思い出

直轄　谷本篤子

高丸分教会長の谷本理喜男氏は叔父になります。私が中学一年生の時父が亡くなり、父親代わりとして何時も見守ってくれておりました（父の実弟です）。姪として思い出を少し綴りたいと思います。

結婚が決まると、父との約束だと言って、木工職人の叔父はとても立派な婚礼セットと鏡台を婚家に送り届けてくださいました。

父親としての思いの一杯詰まった重厚な家具に見守られての人生の門出でしたが・・・「結婚生活を踏ん張り切れない」と相談に行くと「もう篤子は結論を出している様だなあ、それは相談ではなく報告だよ。」と、子供たちのために旧姓に戻りたくなかった私に「離婚するのなら谷本に！」でした。

その一言で、迷うことなく離婚という結論を出しました。子供たちには「自分勝手をします。ごめんなさい。」としか言えませんでした。

息子の就職問題で悩んでいる時、「家に来ないか？」とお言葉がありましたが、こちらの事情で断りました。温かいお気持ちにとても励まされました。

また、マイホームを持ちたいと相談に行くと、女性だからと反対するのではなく「構わないから手続きをしてみなさい」と、力強いアドバイスを受けました。その時、〝貧者の一灯〟（註）という言葉を教えて貰いました。「個々人によって〝おつくし〟は違う。違うのが当たり前だ。その人の精一杯をすれば良い。その気持ちを親神様は、必ず受け取ってくださるから。」と。

新居が完成すると、離婚の時作ってくださっていた整理ダンスの上にきちっと収まる神棚と拍子木を手作りくださり、神饌道具と共に新築祝いとして届けてくださっております。現住所に住居を移してから、毎月、理の親は講社祭にお越しくださっておりますが、年代物になった五点の家具は、今でも使っております。

ところで、今年の一月、極寒の中、弥髙山（叔母の教会）にお願いして、八尾・天理に同乗させて貰いました。八尾に出向いたのは自分自身の身上を直接お話しするためでした。部屋に上がるとニコニコで向かえてくださり「兄さんには良くして貰った」等。和やかな時間を過ごし、帰ろうと立ち上がると、別れの挨拶はピースサインでした。三月に脳梗塞を発症と聞いていましたが、叔母の希望でお見舞いに行っておりませんでした。わずかな時間でしたが、親神様からの御心配りだと今では思えます。

四月二十四日早朝、弥髙山から八尾の叔父の出直しの連絡をうけました。当日は休みで家に居た娘に告げると「今日なら母さんと行ける。一緒に八尾に伺おう。」と言ってくれました。早速叔母に連絡を取り、身支度を整えて新幹線に乗り込みました。最寄り駅で連絡すると、叔母が自宅から葬祭場に向かう車で迎えに来てくださり、お嫁さんの運転で連れて行って貰いました。部屋に案内され、叔父との対面は、人生の終焉の満足感を感じられる穏やかなお顔でした。まだ布団の中でゆっくりと休まれておられる様でした。娘が叔母に寄り添っている時、急に「温かさを肩に感じた。きっと叔父ちゃんが会いに来てくれた。」と言い出しました。私たちの行動を喜んでくださったのだと思っております。弥髙山のお力添えを頂いて、五十日祭にも参列させて頂きました。

決して順風満帆な私の人生ではありませんが、必要な時に、必要な方が、必ず現れて良い方向に導いてくださいます。未熟な私は、何度もお手入れを頂いておりますが、不思議な御守護を何時も頂いております。そうして〈現在〉、今までを生かして頂いております。家族全員が恙なく日々を過ごして居られる事に感謝しか有りません。

《編者註》

「長者の万灯より貧者の一灯」とは、金持ちの多くの寄進よりも、貧しい者の心のこもったわずかな寄進のほうが功徳が大きい。形式よりも真心が大切であるということのたとえ。

お知らせ

婦人会長様御臨席　婦人会笠岡支部第24回総会の特集号を近日、発行の予定です。

六月次祭祭文

此の笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に　会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には子供かわいい一条の親心から　天然自然のお働きを通して陽気ぐらしが出来るようにと御守護を下さっております　加えて身上事情を通して十全の守護を感じさせて頂き　八つのほこりの教えにより心の反省をお促し下され　陽気ぐらしへとお導き下さっております事は　誠に有難く勿体ない極みでございます　しかるに多くの人はその親心が分からず　心に不安を抱え苦しみに喘いでいます事は誠に申し訳ない次第でございます　先んじて親心に触れた私共は　日々たんのうの心で身上事情の中も喜び感謝一杯に朝夕に御礼申し上げつつ　一人でも多くの人に親心を伝えるべくたすけ一条のご用の上に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は　たすけの元立てとお教え頂いた　おつとめを勤める日柄でございますので　只今からおつとめ奉仕人一同　たすけ心と喜び感謝の心も一入に明るく陽気に勇んで　坐りづとめてをどりをつとめて六月の月次祭を執り行わせて頂きます　御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が　相共にお歌を唱和し日頃のご高恩に改めて御礼申し上げ　尚も変わらぬ親心にお縋りする状をご覧下さいまして　親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて明後日二十三日は婦人会笠岡支部の　婦人会長様御臨席総会でございます　総会目指し連日多くの人が　準備ひのきしんに汗を流し伏せ込みをしております　どうぞその真実をお受け取り下さいまして　勇み喜び感謝の心一杯の総会になるようお連れ通りの程をお願い申し上げます　そしてその勇み心のまま　記念祭に向けたすけの輪を広げていく所存でございます　又来月二十六日から八月四日にかけて恒例の子供おぢばがえりが開催されます　少子化だからこそ一人でも多くの子供達に　真実の親心に触れて貰わなければなりません　参加募集の上により力を注いで行く所存でございます　更には又　夏休みや盆休みと休日が増えてきます　普段中々教会に来られない人にしっかりと声掛けをし　諸行事に参加を促すと共に陽気ぐらしを目指して成人の歩みが進められるよう丹誠させて頂く所存でございます

何卒親神様には「陽気ぐらしを目指してたすけの輪を広げよう」を合言葉に　日々精一杯に歩む皆のたすけ一条の真実をお受け取り下さいまして　万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り　助かりたいから助けたいの心に立て替わる人が弥増して　お望み下さる陽気ぐらしの世の状が　一日も早く実現しますようお導きの程を　一同と共に慎んでお願い申し上げます

大教会だより

◎第九三六期修養科

自　立教182年4月1日
至　立教182年6月27日

＊教養掛

＊教養掛（㊟主任、(副)副主任）

一ヶ月目　㊟門脇元教（大教会役員・島根分教会長）
　　　　　(副)三嶋正教（笠尋分教会長）
二ヶ月目　㊟杉原博之（大教会役員・明石市分教会前会長）
　　　　　(副)髙橋徳行（亀田山分教会長）
三ヶ月目　㊟谷内伸自（大教会役員・輝美濃分教会前会長）
　　　　　(副)藤井保人（福東分教会長）

＊修了者

笠岡　スティーヴン　カスミア　マサウェ
稲倉　中村良二
芦常　原　智恵理
上下　山野奈々

立教百八十二年 六月月次祭 祭典役割表

祭主	扈者	講話
大教会長様	上原志郎、横山逸郎	中島誠治

賛者	指図方	八月講話
山田敏教、三代温生	佐藤道孝	杉原博之

区分／役割	地方	おつとめてをどり	笛	ちゃんぽん	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓
坐り勤	佐藤道孝、上原志郎、中村義太郎	大教会長様、上原明勇、上原繁道、大教会奥様、田中ますみ、虫明好美	中村道徳	森本忠善	吉岡壽	中島誠治	森本忠平	岡崎真一	佐藤香苗	今川佐智子	上原順子
前半	門脇元教、武内清明、内海史郎	中村剛、三島渉、今川昌彦、内海安子、岡崎豊子、門脇加津	佐藤真孝	山田敏教	横山逸郎	淺野明教	高木昭祥	赤木素志	谷内美知子	室悦子	高木孝子
後半	上原浩、山野弘実、森本忠善	田中隆之、杉原博之、吉岡誠一郎、武内正美、山野なつ、田中つかさ	上原繁次	渡邉隆夫	田林久嗣	虫明立生	岡田誠	三代温生	三島照美	岡崎和美	吉岡八恵

◎教人資格講習会（前期）修了者

立教182年7月1日終講

福山　田中 旬

◎第九三六期修養科一期講師

自 立教182年4月1日
至 立教182年6月27日

多古浦　余村 健

Wa-luck（ワラック）　天理教青年会

Wa-luckは、信仰の喜びを皆様のスマホへお届けする、陽気ぐらしのサポートアプリです。日常的に陽気ぐらしのエッセンスにふれるツールとして、ぜひお使いください。

道友社をはじめ、婦人会・青年会・少年会・学担などが提供する刊行物の中から読み物系のコンテンツを集め、利用者の興味や関心に応じた記事をweb上やアプリでお届けするサービスです。全ての機能が無料でご利用いただけます。

よりみち

令和になると、初めての〇〇とか令和最初の〇〇、人生初めてどうとかという表現が目立ちます。私もいろいろ新しい事へチャレンジをしていますが、その一つに遅ればせながらtwitter始めました。はじめは誰も知らない人ばかりなので、まずは興味のあることを検索、地元の地名を入れていくと、旅する人たちのアカウントにヒットします。バイク、自転車、そして歩き等で日本を一周している人たちは沢山いるんですね。その人たちが近くに来そうだとすると、なんだかソワソワして、投稿画面の見たことのある風景に、いいね！なんて押してみたり、ルートを教えてあげたり。全然知らない人だけど道の辻で会ったらにをいをかけんならんでしょ。だって日本一周ですから。天理教の人にめっちゃ親切にしてもらえたなんて日本中に投稿されたらテンション上がりますしね。人生の目的地がおぢばになるようにいつも親切丁寧に対応したいものです。（本）